

# 海賊版 派兵恒久法

## ソマリア沖派兵に反対の声を！

イラクから空自が撤退をしてやれやれと思うまでもなく、今度は、海自護衛艦とP3C対潜哨戒機がアデン湾のソマリア近海に無法のまま派兵されようとしています。「うそ！何で派兵できるんだ！」という驚きの声は国会にも街角にもありません。私たちが含める人は、今日明日の生活のやりくりで一杯です。生活にブレながらも、無力とはいえ、私たちはまだ蓄積されたつながりとノウハウがあります。「出すべき反対の声」を出す程度の元気はあります。「派兵反対」の一点に力を集中していきましょう。

### 3・14海自部隊出航に反対

無法状態のまま「まずは派兵ありき」で、政府は3月4日、海上警備行動として3月14日に海自の派兵を決定。広島県呉基地の海自第4護衛隊群所属の「さざなみ」がソマリア沖を目指して出航し、3週間で現地に到着の予定です。燃料の給油はインド洋に展開する海自補給艦から受けるといいます。また、「海賊対策」で随時自衛隊派兵を可能にする「海賊対処法案」を3月13日に閣議決定し、国会に提出することが決められました。（中日新聞3月4日記事参照）

### 新法案の13日 閣議決定・国会提出に反対

法的根拠がないまま、見切り発車で護衛艦を出し、新法成立を持って海上警備行動から新法に基づく「海賊対処行動」に切り替える。これでインド洋・アデン湾に給油艦つきの海自護衛艦がアメリカ中央軍の指揮下で無期限に活動することになります。更に、ソマリアの隣のジブチ共和国と協定を結び、海自のP3C哨戒機の基地作りの交渉を外務省は始めています。

ジブチ共和国は、人口50万人で、ソマリアのソマリア族と同じソマリ人が半分を占め、エリトリア・エチオピア・ソマリアに囲まれ、イスラム系武装勢力の越境が簡単のため、防衛省・自衛隊は、基地防衛のために陸自の派兵の検討に入っています。話は、海自護衛艦「さざなみ」と「さみだれ」が派兵されるだけのことはありません。資材・人員の輸送にまたまた小牧基地のC130が派兵され、現地での三軍統合作戦としての「海賊対策行動」を政府は計画しています。指揮系統は、日本は持ち続けると主張しても、すでに日本が「不朽の自由作戦」の一部である「合同任務部隊150」の準参加国と認識されている以上、実質は対テロ戦争及びソマリ

ア沖の洋上の臨検を目的とする合同部隊の指揮下で作戦行動をとることになります。これを「集団的自衛権の行使」と言わず、なんと言えはいいのだろうか。

新法案「海賊対処法」が、以上の行動を視野に入れた恐ろしい法案だと断定せざるを得ません。派兵地域も期限も限定されず、静止に従わずに向かってくる場合、武器の使用ができ、外国籍を含めたすべての船舶へ拡大をしています。首相の承認だけで防衛相は自衛隊に対処行動を命令でき、首相は承認時と対処行動が終了した場合に国会に報告するだけでよいこととなります。「海賊版派兵恒久法」と言わざるを得ません。

### ソマリア沖図上演習

3月2日・3日と行われた海自幹部学校内（東京都目黒区）での図上演習がこれからの物語っています。防衛省・外務省・国土交通省・法務省・内閣官房の関係職員150人が参加し、呉基地内の派兵隊員たちと同じモニター画面を見ながらの図上演習だったと報道されています。各省庁を前にして、海自幹部たちは「我々の時代がいつに来た」と錯覚したろうと思います。私たちはこれからも「武力で問題は解決できない」と訴え続けます。

（金安 弘）